

教育委員会だより

山北町で学ぶ「自然・農業・観光・介護」～鹿島山北高等学校の学校設定科目～

旧三保中学校の跡地に開校された通信制高校の鹿島山北高等学校が、創立から6年となりました。令和3年度からは旧三保小学校の校舎も活用しています。

丹沢湖をはじめとする雄大な自然に囲まれた校舎で行われる3泊4日のスクーリングでは、地域みなさんと連携して地域特性を生かした次の4つの独自科目も学んでいます。

鹿島山北高等学校トピックス

- ①在籍生徒数は、500人
 - ②居住地は、北は北海道から南は沖縄県までの37都道府県
 - ③在籍生徒居住地ベスト5は、神奈川県・東京都・千葉県・沖縄県・埼玉県
 - ④1回のスクーリング参加者数は、平均約40人。最大50人
- (12月31日現在)

自然

森林保全と生命

「足柄丹沢の郷ネットワーク」の協力のもと、山北町の環境を教材にして、間伐・枝打ち体験を通じ「森と人との関係」や「生きている森」を学ぶ科目です。間伐・枝打ちすることで本当に森が明るくなることを実感し、環境保全への関心を深めています。



農業

山北町の新しい農業

山北町の農業を知り、気候や天気、地域実態に応じた産業の研究や提案をめざす科目です。箒沢にある学校管理園で、地元の農業に明るい方のご協力を得て、苗植え、収穫、収穫した作物を食する体験をとおり、気候や特性にあった農業について学んでいます。



観光

山北町の観光促進

インターンシップやフィールドワークを通じ、今ある観光資源活性化の研究とともに、新たな資源発掘や創出を追求する科目です。三保地区の観光資源や、「かながわ地域振興会」から学んだ山北の商店街の今昔から、その生かし方や活性化を考えています。



介護

介護支援とコミュニケーション

高齢者・車いす・介添え等の様々な体験活動を通じ、社会に貢献する力の育成を図る科目です。コロナ禍前は三保地区の介護施設の協力のもと、実習やボランティア活動を行っていました。体験をとおり、自分にできることをしたいという気持ちを高めています。



「やまきた拍子木の会」が表彰されました

紙芝居サークル『やまきた拍子木の会』が「紙芝居文化推進協議会 第23回手作り紙芝居コンクール」において、神奈川新聞社賞を受賞されました。会の皆さんが、町教育委員会を訪れ、11月に開催された表彰式当日のお話や、町内での戦争の実体験を描いた受賞作品「18歳の夏～わたしの戦争体験～」の内容について報告をしてくださいました。今後この紙芝居の「大型紙芝居」を制作される予定もあるとのこと、これからのますますの活躍がとても楽しみです。

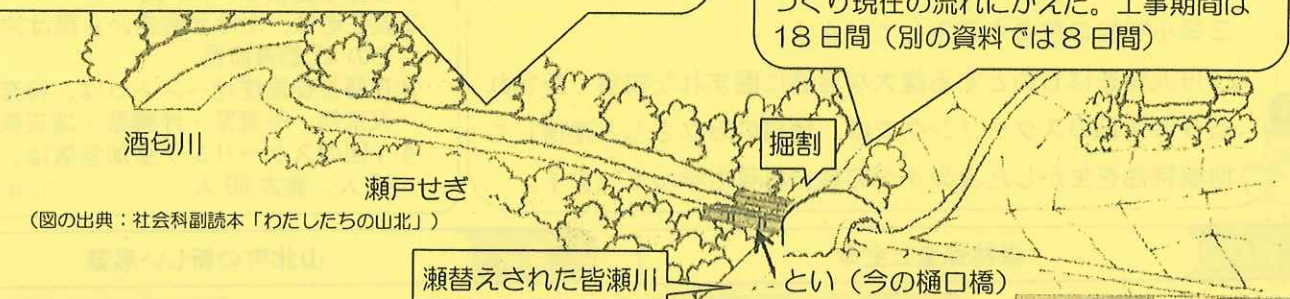
また、2月に開催する生涯学習センターフェスティバルでは「世附の百万遍念仏」の大型紙芝居を披露してくれそうですので、町民の皆さまも是非ご覧ください！

※フェスティバルの詳細は1月号の生涯学習センターだよりをご覧ください。



酒匂川の瀬戸に設けた取水口から、掘割の上に架けた樋を通して尺里川まで水を流す全長約9.5kmの用水路。延べ2万5千人が工事に参加し、1779年から足かけ4年で完成。瀬戸せぎ取水口から皆瀬川掘割までの約3.5kmは、川沿いの崖面を切り割ったりトンネルを掘ったりしてつくった。

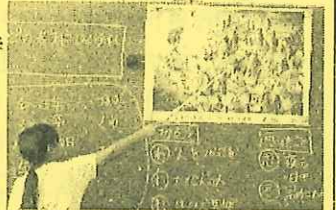
1709年、今の山北駅のあたりを通過して向原へと続き酒匂川と合流していた皆瀬川を、延べ1000人以上が参加して掘割をつくり現在の流れにかえた。工事期間は18日間（別の資料では8日間）



(図の典拠：社会科副読本「わたしたちの山北」)

皆さんは、樋口橋近くにある「川村土功之碑」をご存じですか？約300年前の江戸時代、富士山の大噴火による降灰で埋まった皆瀬川の洪水対策として皆瀬川の流れをかえた「掘割」工事、灌漑用水を得るために行った「川入せぎ」「御関所せぎ」工事、水不足解消と新田開拓のために行った「瀬戸せぎ」工事に尽力した、郷土山北の先人の働きを伝える碑です。

川村小4年生が、社会科の授業でこの碑を手がかりに「昔から今へとつづくまちづくり」の学習をしました。子どもたちは、当時の様子を伝える読み物資料や工事の想像図、土木工事で使っていた道具の絵や実物、現在の「掘割」や「瀬戸せぎ」の写真と見学などをとおして、動力のない時代にこれらの大工事が人々の手によって成し遂げられたことを具体的に学び、そのすごさに驚きました。そして、生活の向上や地域の発展を願って様々な苦心や努力を重ねてきた当時の人々の思いは、今を生きる自分たちの暮らしにつながっていることにも気付きました。地域学習が子どもたちの郷土愛を豊かに育む学びであることを、子どもたちの姿が語っています。



工事の想像図を見て気付いたことを、学級の仲間に伝える



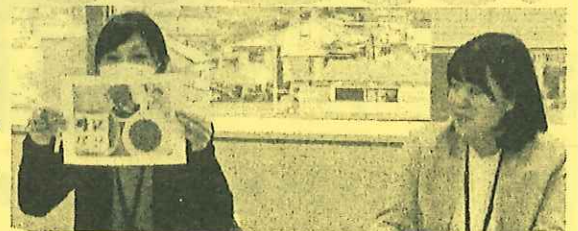
「のみ」や「げんのう」の重さに驚く子どもたち

「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の食育推進のキーワードは「つながり」

12月12日（火）に、園・小・中の食育担当者による山北町食育担当者会議が開催されました。

今年度の町食育テーマは「つながり」です。各園・学校からは、テーマに向かって様々な活動や学習の中で食育推進が行われている様子や、食育の中核である給食で提供している各種の行事・教科や子どもたちのアイデアを生かして創意工夫された、わくわく感いっぱいの献立が報告されました。

地域 仲間 異校種間 教科 行事 本



中学校からは「テスト応援献立」の実践が報告されました。

教育委員会の審議事項

令和5年
(第11回～第12回・協議会)

- 第11回（11月22日）
 - ・教育長報告
- 協議会（11月22日）
 - ・第3回県立山北高等学校「地域との協働による報告会」について
 - ・令和6年山北町二十歳を祝う会について



- 第12回（12月22日）
 - ・教育長報告
 - ・山北町教育委員会教育長の辞職について
 - ・山北町教育委員会教育長の選任について
- 協議会（12月22日）
 - ・第45回丹沢湖マラソン大会結果について
 - ・令和5年度生涯学習センターフェスティバルについて
 - ・第78回足柄上地区一周駅伝競走大会について
 - ・新年度準備期間についての陳情について